

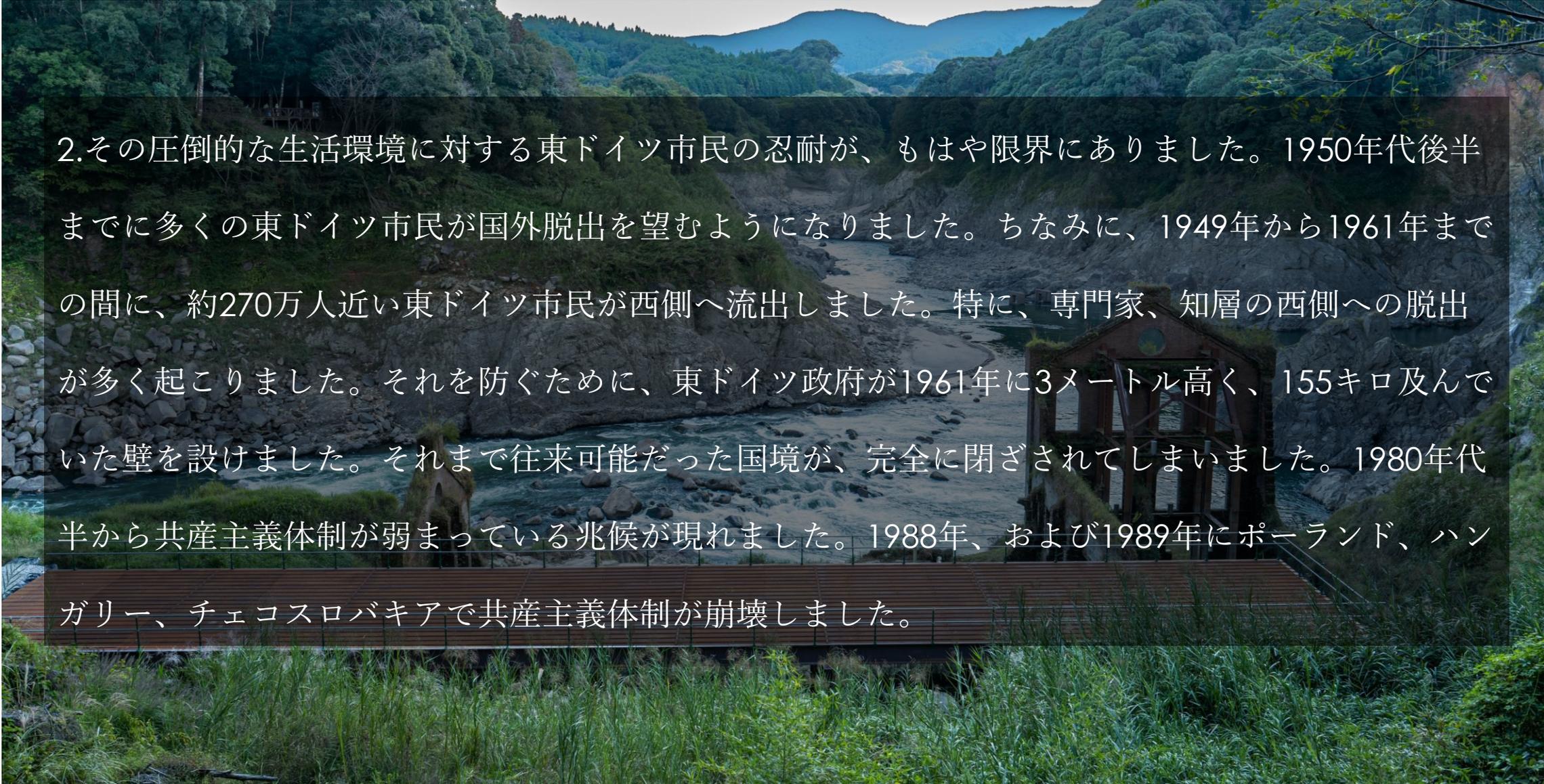
11月

「Schicksalstag zum Dritten」 アントニア・シュルト

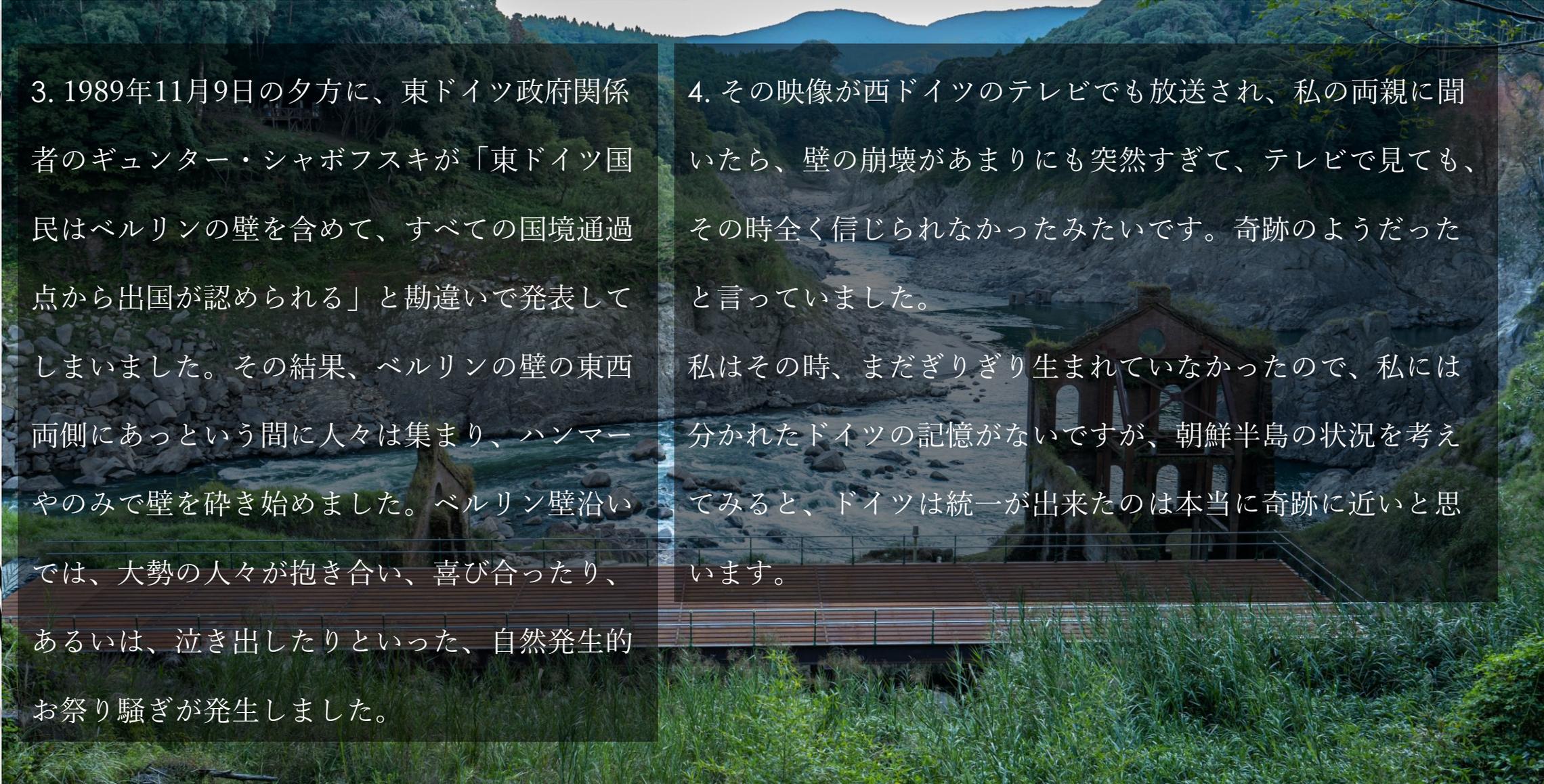
1. このコラムシリーズの中で、11月9日にドイツで歴史的な事件がよく起こった日というのをきっかけに、1918年の「ドイツ革命」と1938年の「水晶の夜」というテーマについて書きました。今回は、第二次世界大戦の東西冷戦の象徴であった「ベルリン壁の崩壊」を主題にしたいと思います。

▶ 第二次世界大戦が終結したときに、連合国は、敗戦ドイツを四つに分割しました。1949年、アメリカ、イギリス、フランスが分割占領していた3地域は、統一されて西ドイツとなりました。それを受けて、ソ連は直ちに東ドイツ（ドイツ民主共和国）を成立させました。西と東に分かれたドイツの間では、戦後から間もなく、経済そして、生活の水準に差が出てきました。西ドイツ市民は勤勉に働き、良い暮らしをし、便利な道具や家電を購入し、望むままに旅行に行けるようになりましたが、東ドイツでは状況がほぼ真逆でした。





2.その圧倒的な生活環境に対する東ドイツ市民の忍耐が、もはや限界にありました。1950年代後半までに多くの東ドイツ市民が国外脱出を望むようになりました。ちなみに、1949年から1961年までの間に、約270万人近い東ドイツ市民が西側へ流出しました。特に、専門家、知層の西側への脱出が多く起こりました。それを防ぐために、東ドイツ政府が1961年に3メートル高く、155キロ及んでいた壁を設けました。それまで往来可能だった国境が、完全に閉ざされてしまいました。1980年代半から共産主義体制が弱まっている兆候が現れました。1988年、および1989年にポーランド、ハンガリー、チェコスロバキアで共産主義体制が崩壊しました。



3. 1989年11月9日の夕方に、東ドイツ政府関係者のギュンター・シャボフスキが「東ドイツ国民はベルリンの壁を含めて、すべての国境通過点から出国が認められる」と勘違いで発表してしまいました。その結果、ベルリンの壁の東西両側にあっという間に人々は集まり、ハンマーのみで壁を砕き始めました。ベルリン壁沿いでは、大勢の人々が抱き合い、喜び合ったり、あるいは、泣き出したりといった、自然発生的お祭り騒ぎが発生しました。

4. その映像が西ドイツのテレビでも放送され、私の両親に聞いたら、壁の崩壊があまりにも突然すぎて、テレビで見ても、その時全く信じられなかったみたいです。奇跡のようだったと言っていました。

私はその時、まだぎりぎり生まれていなかったのですが、私には分かれたドイツの記憶がないですが、朝鮮半島の状況を考えると、ドイツは統一が出来たのは本当に奇跡に近いと思います。